

ハイ口通信 From 北区

第8号
2021年
7月20日

発行責任者
泊原発の廃炉をめざす札幌北区の会
共同代表 富田 素實江
北8西3 札幌市エルプラザ2階: レターケース256
TEL 090-7644-4379 FAX 011-726-7234

未来の子どもたちを送る決意

〈 核のゴミ処分場誘致の決議に際して 〉

神恵内村在住 北海道詩人会議・会員

滝本 正雄

この国はいまも資源の乏しい国として
原発によるエネルギーを採り入れ
核サイクルと称して原発再稼働に固執している
豊富な再生可能エネルギーを放置して…

福島原発事故の教訓に学ぶこともなく

被曝の危険に目を瞑り

「神の領域」に手を突っ込んだまま

未来に被曝の危険を持ち込もうとしている

福島県民健康調査の甲状腺検診では

延251名(第5回本格調査)が甲状腺ガンとなり

ガン予備軍と云われる結節児童と嚢胞児童が

予備調査で14万0718名を数え 増えている

国立ガン研究センターの全国児童全ガン罹病率の

約202倍以上の甲状腺ガン罹病率なのに

それでも「原発事故との因果関係はない」と嘯き

被曝に苦しむ福島の子どもたちを切り捨てている

現世代の大人たちは 原発の持ち込みを許し

いま又 原発から出る「核のゴミ」の処理に慌て

子どもたちの未来に被曝

の積み残しを図っている

国連で採択された「世代

間倫理」は何処へやら

〈2面に続く〉



KAMOENAI VILLAGE
どらごん太
DRAGON-TA

風 声

▼オリンピックの開催予定日まで、もう日数はほとんどありません。政府も、開催自治体も、IOCや日本のオリンピック委員会も、いつのまにか、「観客を入れるか、入れないか」だけを問題にし、開催を前提とした世論誘導を行っている状況です。

そして、新型コロナウイルスの感染再燃防止に失敗した東京都をはじめ、各地で「緊急事態宣言」が発令されるという状況の中で、オリンピックを強行しようとしています。こんなことではないのでしょうか▼オリンピックを開催することの問題の二つは、当然、コロナ下での問題です。このコロナ禍の中での開催は、選手をはじめ大会関係者はもちろん、国民の命の危険性の増大が伴います。また、世界的な、コロナの感染蔓延の中で、各国・地域において、選手選考会や練習環境、出場機会、日本への渡航の困難性、等々において、不平等、格差が生じています。このような状況下では、公平なオリンピックとは、とてもいえないと考えます▼もう一つの問題は、オリンピックそのものの問題です。オリンピックの精神(理念)は、「近代オリンピックの父」とよばれているクーベルタンによれば、「スポーツを通して心身を向上させ、文化・国籍などの様々な違いを乗り越え、友情、連帯感、フェアプレーの精神をもって、平和でよりよい世界の実現に貢献すること」(東京オリンピック・パラリンピック事務局 HP)であり、この精神がずっと受け継がれてきました▼現在のオリンピック憲章にも、「オリンピック・ムーブメント(オリンピック)に関する様々な活動の目的は、いかなる差別も伴うことなく、友情、連帯、フェアプレーの精神をもって相互に理解し合うオリンピック精神にもとづいて行われるスポーツを通して青少年を教育することにより、平和でよりよい世界を作ること」に貢献することにある」と書かれています▼この脈々と続いたオリンピックの理念が、近年のオリンピックでは段々と軽視・無視され始め、「オリンピックの変質」を進んでいます。例えば、アマチュアリズムの崩壊、資金難や招致に絡むスキャンダル、行き過ぎた商業主義、肥大化の弊害、参加することより、メダル(勝つ)ことに意義を置かされている選手・・・等々、開催されたとしても、「平和の祭典」とはいえなくなっています▼また、フクシマの現状を見ると、東京大会を安倍元首相が看板にした「復興五輪」とはとても呼べない状況は明らかです。今や、東京大会の開催の有無に拘わらず、オリンピックのあり方を一から見直すべき時でしょう。

21・7・14

(福地保馬)

未来の子どもたちを送る決意

〈 核のゴミ処分場誘致の決議に際して 〉

←一面からの続き→

民主主義の多数決は

尊いが

多数による暴挙を

許してはいけない

正義の少数意見こそ

尊重されるべき

この国の未来を担う子どもたちに

被曝の危険と「種」の健全さを脅かす毒害を残すのは

断じて許してはならない!!

「核のゴミ」は「ゴミ」ではなく「核の危険物」

ウラン238の45億年の長い年月の内部被曝で

「種の健全性」を脅かして「奇形」の遺伝子となし

犯してはならない「神の領域」を犯すもの…だから

少数意見でも正論は断じて譲らない覚悟を送る

未来の子どもたちも現世代と繋がる家族だから

2020年12月稿



たつ姫 だらごん太

「たつ姫」と「だらごん太」

だらごん太は神恵内村・当丸沼に住む竜神様が竜神岬から昇天したという村の伝説がモチーフ。開村140年を記念して平成4年に村のイメージキャラクターとして決定。たつ姫はガールフレンド。



KAMOENAI VILLAGE
たつ姫
TATSUHIME

「核の危険物」を「ゴミ」扱い

北海道詩人会議・会員 滝本 正雄

「高レベル放射性廃棄物」

あるいは「高レベル放射性濃縮廃液」と云う

20秒近づいていると死に至る危険物なのに
それを「ゴミ」云々

「ゴミ」と云えば危険で無さそうに聞こえて
家庭から出る「ゴミ」を想像する。

そこが狙い…なのだ

かつて使用済核燃料を

「電気」の廃棄物」と「マーシャルで

宣伝したが

「廃棄物なら何処へ捨ててもいいのか…」と

抗議が相次ぎ 「マーシャル」は中止となった

それでも懲りない電気事業連合会と国

「核の危険物」を「ゴミ」と云うなら

「ゴミなら」収集車に

捨てられるのか!!…と

「核の危険物」の発生源は原発で

「核の危険物」の大本である

大量に流れ流しているトリチウム問題も

この国では基準値を設定せず

概ね60000ベクレルを目安と…

している

カナダは20ベクレルの基準値設定なのに…

福島第一原発のトリチウムを含む汚染水は

海洋に投棄すると決めた…暴挙

カナダ基準と比べてどうか…

の質問には答えず

「飲んでも安全」と麻生財務大臣が嘯く
「飲んでも安全」なら飲んでみる…
と云いたい

海洋投棄を決めた汚染水の希釈は
カナダ基準の以下になっては…いない
この国は「核」も「汚染水」も
先送りを繰り返す

土壇場で国民に迫る決定の仕方は
民主国家に馴染まない専制政治の
常套手段

国民を目潰しにかけ

物を云わせぬ暴挙は

必ずや 良識の正義に屈服する末路を
辿るだろう

2021年6月稿



神恵内青少年旅行村

3・11から10年

シリーズ【福島を告発する】⑥

福島第一原発での過労死を許さない！(上)

東京電力の命への向き合い方を問い続ける！

福島第一原発過労死責任を追及する会

牧野 悠

2017年10月26日、福島第一原発（イチエフ）構内の車両整備工場で整備士として働いていた猪狩忠昭さん（57歳）は防護服へ全面マスク姿のまま倒れ、還らぬ人となりました。死因は「致死性不整脈」でした。

その日の夕方、東京電力は記者会見を行い、猪狩さんの死について「業務との因果関係はない」と断言しました。この記者会見は、遺族がまだ猪狩さんの遺体と対面すら出来ていない時間帯に行われました。のちに記者会見の内容を知った遺族は、再度怒りと悲しみにくれることとなります。

いわきオールへの抗議行動



猪狩さんを雇用していた「いわきオール（いわき市小名浜）」の社長夫人（当時の取締役）は葬儀の席で遺族に「労災ではないから」と言い放ちました。

東京電力の記者会見の内容と「いわきオール」の態度に不信感を持った遺族は「フクシマ原発労働者相談センター」に相談に訪れ、闘いを決意します。

相談センターの構成団体である全国一般労働組合全国協議会「いわき自由労組」に遺族が加入し、いわきオールへの団体交渉を要求しました。いわきオールは団体交渉を拒否。しかし、調査によって猪狩さんは亡くなる直前の半年間で毎月100時間を超える時間外労働（残業）を強いられ、しかもその残業代もまともに支払われていないことが分かりました。

過労死ライン（月80時間以上の時間外労働）を大きく上回る時間外労働を強いられた結果、猪狩さんは倒れたのです。遺族は2018年3月にいわき労働基準監督署に労災の申請を行い、同年7月いわきオールを被告として未



判決前 遺族アピール

払賃金請求裁判を福島地裁いわき支部に起こします。猪狩さんの時間外労働賃金を適正に支払わせるためです。

未払賃金裁判は、猪狩さんが亡くなる前二年間の未払だった残業代を取り戻す裁判です。しかし、遺族の思いは単に未払賃金を取り戻すだけではありません。

なぜ、猪狩さんは亡くならなければならなかったのか。その責任はどこに、誰にあるのか、を明らかにすることでした。

2018年10月、いわき労働基準監督署は猪狩さんの死について「長時間労働による過重労働が原因」として労災を認定しました。東電が猪狩さん死亡当日におこなった「業務との因果関係はない」という記者発表が誤りであったことが明らかになりました。

遺族の加入した全国一般労働組合全国協議会は東電と元請宇徳、いわきオールへ謝罪を求めて

話し合いの要求を行いました。三者はいずれも話し合いを拒否しました。

2019年2月、遺族はいわきオール、宇徳、東京電力を相手取り、損害賠償請求裁判に踏み切ります。損害賠償請求裁判は未払賃金請求裁判と並行して進むこととなります。

損害賠償は、三つの案件で構成されています。

①猪狩さんが長時間労働を強いられているのを知りながら、放置し適切な時間管理を怠った責任を問う。被告：いわきオール、宇徳。

②猪狩さんが倒れた時、周囲にいた労働者の誰もが携帯電話を持っていなかった。整備工場にも電話がなかった。そのためにER（救急医療室）への連絡ができず、ERでの対処に遅れが生じた。イチエフ内での適切な救急医療体制の構築を怠った責任を問う。

被告：宇徳、東京電力。

③猪狩さんが亡くなった当日の記者会見で猪狩さんの死について「業務との因果関係はない」と繰り返し発表した。その責任を問う。被告：東京電力

若干わかりにくいとは思いますが、それぞれの構成について整理したいと思います。〈4面に続く〉

福島第一原発での過労死を許さない！

〈3面からの続き〉

① 「長時間労働」- 被告：いわきオール・宇徳について

猪狩さんは毎日早朝4時半までにいわきオールに出社していました。毎朝の体温測定と血圧のチェックが義務付けられていたからです。また、イチエフには許可を受けた車両でしか入構できません。許可を受け、登録された車両と入構に必要なIDカード(入構証)・WID(作業名や一日の線量の上限などが記載されたバーコード入りのカード)・ガラスバッジ(一ヶ月間の累積線量が記録される線量計)を会社まで取りに行く必要があります。

同僚と4時半に会社に待ち合わせし、許可車両を運転しイチエフに向かいます。いわきオールからイチエフまでは走行距離で片道約60キロ。避難指示によって走行できる道路は限られ、毎日約5000人(2017年当時)の労働者がイチエフで働いているため渋滞も考慮する必要があります。しかも元請宇徳よりイチエフ手前約20キロ地点の宇徳広野町事務所に5時半までに整備工場を使う部品などの納品を命じられていました。そのためにも猪狩さんらは毎朝4時半に出社せざるを得ませんでした。



イチエフ内整備工場での作業は8時からですが、入構にあたってのIDチェックや荷物のチェック、東京ドーム70個分とも言われる広大な敷地の移動や全面マスク・防護服などの装備品の受け取りと装着、ミーティングなどの時間を考えれば6時過ぎにはイチエフに入構しなければなりません。整備工場での作業を終えても、いわきオールまで戻り社内の整備作業などを行い退社するのは18時前後でした。

いわきオールは、これら社用車の運転、宇徳への部品の納品、イチエフと会社の移動、構内移動、装備品の装着、ミーティングの何れも「労働時間ではない」と主張しました。労基署による労災認定でも上記のほとんどが労働時間と認められてもなお未払賃金(残業代)の支払いを拒否し続けました。

長時間労働を強いたいわきオールとともに早朝の納品を命じた宇徳にも、猪狩さんの死の責任があるはずだ。

② 救急医療体制の不備を問う - 被告宇徳、東京電力

猪狩さんは午後の休憩を終えて、整備工場に向かう途中に体調不良を訴え意識を失いました。異変に気づいた同僚らは猪狩さんをすべにER(救急医療室)に運びます。しかし、ERでは倒れてすぐに連絡がなかったために対処が遅れてしまいました。

東京電力は、構内で働く労働者に「連絡カード」を配布し、カードには「傷病者発生時の第一報はERへ」という文言とERの電話番号が記載されています。しかし、猪狩さんが倒れた時に周囲にいた同僚らは誰も携帯電話を持っていませんでした。携帯電話を貸与されていた責任者(宇徳やその下請けの宇徳プラントサービス社員)もその場にはいませんでした。しかし工場内に電話は設置されています。

救急医療が必要な際には適切な処置を受ける期待権があります。ましてやイチエフという特殊な現場であれば万全の救急医療体制が必要はすです。しかし、東電と宇徳はその責任を怠りました。その責任を問うています。

東京電力は損賠裁判のなかで「作業員全員に携帯電話を貸与させるのは過剰な負担」と命よりも経済を優先する主張を平気で行ってきます。しかも、猪狩さんが亡くなった半年後にはイチエフ構内で働く労働者全員にスマホを貸与したにも関わらず！

③ 記者会見での発言- 被告東京電力

猪狩さんが亡くなった当日の記者会見で東京電力は猪狩さんの死を「業務との因果関係はない」と断言しました。会場にいたある記者は何度も「連動ではなかったのか？過労死ではないのか？そういったことも調べたのか？」と問いたしましたが、東電の回答は変わりませんでした。

亡くなった当日に過労死であったかなどは分かるはずがありません。東電は「調査する」と応えるべきでした。事実、労基署は猪狩さんの死について「長時間労働による過労が原因」として労災の認定を下し、東電の記者発表が誤りであったことは明らかになったのです。しかもこの会見は遺族がまだ遺体と対面すら出来ていない時間帯に行われたものでした。

労災認定後も東電からの謝罪の言葉はありません。

〈5面に続く〉

福島第一原発での過労死を許さない！



遺影を手に裁判に臨む遺族

〈4面からの続き〉

遺族は東電の記者発表に深く傷つき、不誠実な対応への謝罪を求める意味でも損害請求を行ないました。

東電は発言自体は認めつつも「受忍限度内である」という主張を行い、未だに謝罪の姿勢すら見せていません。

福島地裁判決

(1) 未払賃金裁判

損害裁判に先立って始まった未払賃金請求裁判（被告いわきオール）は2020年3月に判決が下りました。

判決はいわきオールに対して約270万円（1年11ヶ月分）の支払いを命じる勝利判決と言える中身でした。

いわきオールの「イチエフまでは移動時間」という主張は完全に退けられました。

判決では、いわきオールからイチエフに移動する時間は途中にコンビニに寄っていようと、納品がなくても労働時間であることが認められました。広大なイチエフの敷地内を移動する時間や構内ミーティングなどの時間も労働時間として認められました。

この判決の意義はとても大きなものがあります。イチエフや、除染、中間貯蔵施設で働く労働者の多くは長時間の移動を強いられています。建築・土木・警備など長時間の移動を前提とする労働者の権利確立の道を開いた判決です。

この判決を勝ち取るにあたって、猪狩さんの同僚Mさんの存在がありました。

Mさんは猪狩さんが亡くなった時も一緒に作業をしていた仲間で、裁判には証人として出廷して下さい、イチエフの労働実態について堂々と証言を行ってくださいました。

勝利判決はMさんとともに勝ち取った判決と言えます。

(2) 損害賠償請求裁判

損害裁判でいわきオールは猪狩さんの死因が「致死性不整脈」ではなく「肺塞栓」であると主張してきました。肺塞栓での死亡であれば、労災

の対象とならないからです。

この主張は、弁護団の徹底した反論によって崩壊しましたが、なおもいわきオールは死因は「持病から来た心筋梗塞」であり、「長時間労働が原因と認められた場合でも猪狩さんは持病をもっていた」旨主張しました。責任を猪狩さんに押し付け、賠償の減額を狙うためです。

証人尋問で出廷したいわきオール社長（当時）は、猪狩さんの健康に気を使っていただけ聞いてもらえなかったと責任を猪狩さんに押し付けようとしていました。また、早朝の納品についても「聞いていない」と責任を宇徳に押し付けようとしていました。

この主張は原告側弁護士の反対尋問によって完全に粉砕されました。

反対尋問では被告（いわきオール前社長ら）が「労働時間は適正に管理していた」と主張しながらタイムカードのチェックも行っていなかったこと、また猪狩さんが持病の手術を受ける際に有休が使えず、その月の



東電前で訴える遺族

給料がマイナスになっていたことも明らかにになり、法廷は驚きと怒りの声に包まれました。

前社長のデタラメな証言とは対照的に原告は堂々と証言をやり抜きました。とりわけご長女の「私は人の命と向き合い、助ける看護師として働いています。血の繋がらない患者さんの死でも、とても辛く悲しいです。父の死は人生の中で一番辛い悲しい出来事でした。もっと命の尊さを自覚してほしい。」という涙ながらの証言は、いわきオールを圧倒しただけでなく、東電と宇徳にも救急医療体制の見直しと、下請け労働者への向き合い方を問うものでした。この証言には何人もの傍聴人が目頭を熱くしました。

〈次号に続く〉



「広島・長崎の火」を 福島に「非核の火」として引き継ぐ



3月11日「非核の火」移転式典の早川篤雄住職
提供写真：伊東達也氏

非核の火を灯す会 共同代表

伊東達也

(いわき市民訴訟原告団長)

事故発生から10年目、
桁違いのセシウム残存が判明

今年の3月、原子力規制委員会
は原子炉格納容器の上部蓋に70ペ
タバクレル(ペタは兆の1千倍)と
いう桁違いの大量のセシウムが付
着していることを明らかにしまし
た。

3・11時に外界に噴出したセシ
ウムは15ペタバクレルで、そのう
ち8割の12ペタバクレルは海上に
降り、陸上に降ったのは2割の3
ペタバクレルとみられています。

つまり3・11の事故で陸に降った
量の実に23倍のセシウムが付着し
ています。

今後長い間に地震や台風などに
よって外に飛散したり、拡散した
りすることは絶対起こらないとは
言えません。とんでもないリスク
が明らかになりました。

桁違いのセシウムを屋外に拡
散しないようにどう対応するの
か、廃炉を現在の計画のまま進め
るのか、同時に原発立地町の復興
をどうしたらよいかなど、国と
東電は県民、国民との意見交換の
場を持つべきです。

原発も核兵器も人間が作ったもの
人間の力でなくすことが出来る

事故10年目の3月11日、被災地
の檜葉町に東京上野の森東照宮に
あった「広島・長崎の火」が「非核
の火」として移転し、灯されまし
た。

核兵器は無差別、残虐、大量殺傷
を目的とする兵器として使用され
ました。それから75年、被爆者の
運動がついに国際連合を動かして、
「核兵器禁止条約」が採択され、今



「原発悔恨・伝言の碑」の序幕
中央が安齋育郎氏 写真：伊東達也氏

年1月に発効しました。

一方、原発は核兵器製造の技術
を利用して生まれたもので、放射
能という極めて大きな危険性を
持っています。それを承知しなが
ら国を挙げて「安全神話」をつく
り推進してきたことへの怒りと、
原発の過酷事故がもたらした取
り返しのつかない被害を通して、
多くの福島県民は危険な「核」と
は共存できないと、意識を大きく
変えました。

その怒りと意識の変化に伴う運
動に立ち上がることによって、福
島県民は原発のある全国13道県の
なかで、最初に「原発ゼロ」の道を
拓きました。

核兵器も原発も人間が作ったも
のです。人間の力でなくすことが
出来ます。原発事故被災者の私た
ちは、「非核の火」を灯し続け、「こ
れ以上ヒバクシャをつくるな」と
「二度と原発事故を起すな」の声

を、日本と世界に伝えていく決意
です。

被災地視察、宝鏡寺見学と

「灯す会」へのご支援を

お願いします

「非核の火」移転式典ではこの
日に合わせて建設された「原発悔
恨・伝言の碑」(安齋育郎立命館名
誉教授と早川篤雄さんにより建
立)の序幕も行われました。

また、二つの記念碑の隣に、原発
事故と原爆の被害を資料・写真・パ
ネルなどで示した「伝言館」があり
ます。

いずれも無料で、休みなしで見
学できます。皆様の見学をお待ち
しています。

非核の火の維持をするために
「灯す会」へのご入会も心よりお
願いします。会費は年1000円、
団体は年2000円です。

なお、「コロナ禍がひどくなけれ
ば今年の8月6日に宝鏡寺境内に
おいて、核兵器なくせの記念集会
を予定しています。

ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ
を結ぶ「非核の火」を灯す会

連絡先 19738402

福島県いわき市内郷御厩町3-10-1
いわき教育会館内 いわき原水協

電話 0246-27-5566

FAX 0246-27-5567

寿都、神恵内と核のごみ (上)

室蘭工業大学 名誉教授 宮尾 正大

寿都町と神恵内村が核のごみ最終処分場選定の調査に立候補しました。そこで核のごみとは何なのか、なぜ寿都町が立候補したのかを考えてみましょう。

はじめに

核のゴミって何

核分裂

使用済み核燃料をどうするか

埋めてしまえ！

本当に大丈夫？

埋めたら最後取り出せない！

なぜ寿都町はバンドラの箱を

風に翻弄された寿都町

〈次号掲載〉

成功した風力発電

神恵内は海底下施設？

頬を叩く札束

私たちは何ができるか

はじめに

寿都町と神恵内村が8月に、核

ゴミ処分の最終処分場の候補地に

名乗りを上げました。私たち道

民にとって人ごとではありませ

ん。そこで、改めて核のゴミとは

どんな代物なのか、なぜか神恵内

村と寿都町は名乗りを上げたの

かを考えます。

核のゴミって何？

「核分裂」

核のゴミってなんでしょ

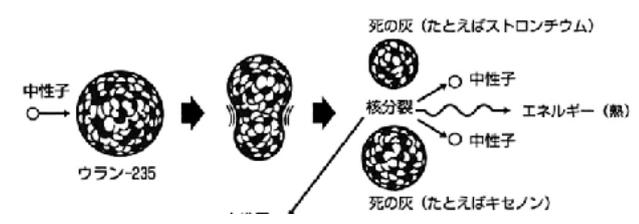
か。原発はウランかプルトニウムを燃します。燃すとい

ても石炭や薪を燃すのと違って、原爆を少しずつ爆発させているようなものです。ウランやプルトニウムなど、重い原子は(原子核が重い)原子核が不安定です。ウランやプルトニウムなどがそれです。不安定な原子核に中性子をぶつけると原子核に吸収されますが、ますます重くなるので不安定になって真つ二つに壊れます。核分裂と言います。この時原子核をまとめたいたエネルギーが過剰になり、膨大なエネルギーが放出されます。

割れ方は片方が大きかったり小さかったりで、ウランやプルトニウムより軽いあらゆる原子が生まれますが、ほとんどが自然界にはない不安定な原子で、強い放射線を出します。放射性物質です。

この時、ウランやプルトニウムでは余ったエネルギーを放出すると同時に平均2つの中性子が放出されます。これを逃さないようにして、次の核分裂に使えば、核分裂を連続して続けることができます。連鎖反応です。原爆や原発はこれを利用します。

ではウランやプルトニウムが壊れたカケラはどうなるのでしょうか。薪や石炭を燃した灰は肥料になって役に立ちますが、ウランやプルトニウムのカケラ、燃えかすは死の灰とも言われるように猛毒です。猛毒とは、強い放射線を出し、生き物の細胞を壊すことです。さらに始末が悪いのは、これらの生まれた毒物は化学的に処理できないことです。普通の毒力も毒薬も高温で焼却すれば無毒化できますが、死の灰ばかりはそうはいきません。原子自身が放射線を出すので、どんなに化学処理を行っても無毒にはなりません。放射性物質が放射線を出し尽くしてなくなるまで待たなければなりません。



出し尽くして我慢できるようなになる時間が10万年という代物です。

もう少し正確に言いました

う。新品の核燃料を原子炉に収め、3〜4年発電すると使用済み核燃料になります。当初3〜5%含まれていた燃えるウランは1%くらいまで減ります。代わりに燃えないウランが原子炉内で中性子を吸って1%プルトニウムに変わり、核のゴミが3〜5%出てきます。核のゴミの中に核分裂を邪魔するものが溜まり、使用済み核燃料はそれ以上使えなくなるのです。

「使用済み核燃料を

どうするか」

使用済み核燃料をどうするか

は原発を利用する国によって違

います。世界の国のほとんどは

そのまま捨てますが、日本とフ

ランスは再処理をしてウランと

プルトニウムを取り出し、燃え

かすだけ処理する方法を選び

ました。その再処理工場として

六ヶ所村の建設がはじまりました

が、25回完成を延期して20

20年の完成が遅れました。当

初予定されていた建設費用も7

600億円が2兆9500億円

と3・9倍に膨れ上がり、電力

代金に重くのしかかっています

。〈8面に続く〉

寿都、神恵内と核のごみ

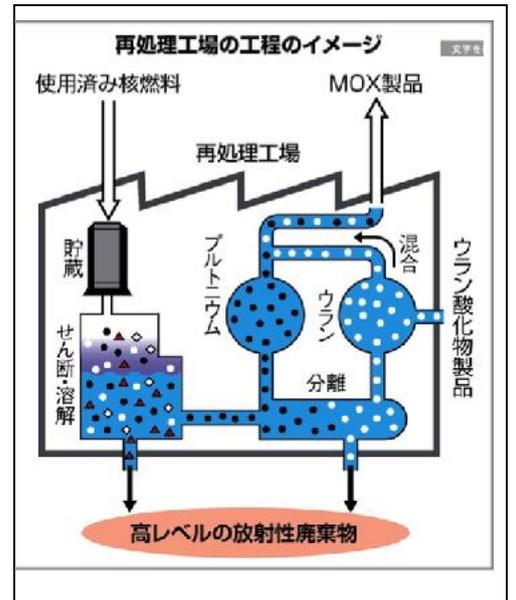
〈7面からの続き〉

再処理から生まれるプルトニウムも大問題ですが今は触れません。原爆の材料になることから、日本のプルトニウムは世界的に疑念を持たれて問題になっています。

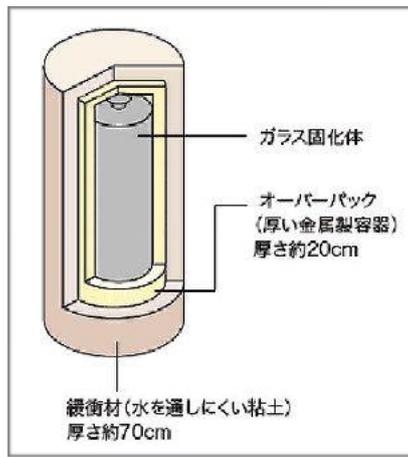
話を放射性廃棄物、いわゆる核のごみに絞ります。六ヶ所村の再処理工場が稼働しない現在、世界で再処理を引き受けてくれる国はフランスとイギリスしかありません。

ロシアには物がものですからちょっと頼めないでしょう。実は日本にも小規模の施設がありました。2006年に終わった東海村再処理施設です。1966年から2002年まで稼働し、通算累積1000トンまで処理しました。現在はフランスとイギリスへ送って処理してもらっています。使用済み核燃料を送って再処理した再処理核燃料と核のごみが送り返されます。その再処理で作られた核燃料の価格は未使用の核燃料に比べてずっと高くつきます。

問題は核のごみです。使用済み核燃料はギロチンで細断され硝酸で溶かされます。ここから化学処理でプルトニウムとウランを取り出しますが、その後溶液が残されます。あらゆる核の燃えかすが溶けている溶液です。液体のままでは危険過ぎるので乾燥させます。乾燥して



できた灰はそのままでは危険なので水に溶けにくいようにガラスに固め



ます。これが核のごみです。

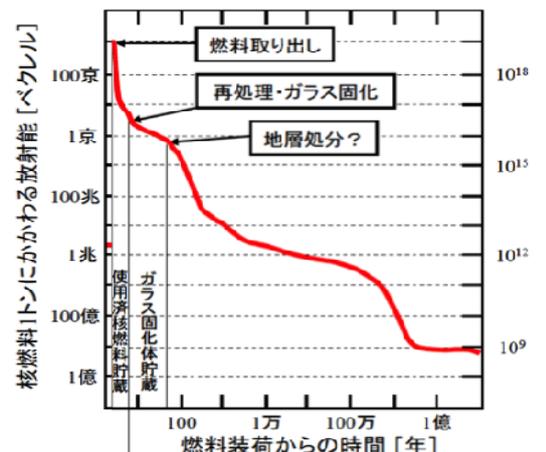
ちなみに蒸発した水は強烈なトリチウム汚染水で、福島でも問題になっているように処理法がありません。薄めて海に捨てて再処理工場は大量のトリチウム水を排出するのです。また放射性物質のラドンやキセノンなども大気中に捨てられてい

ます。ガラスは溶かして、ドラム缶より少し細い、直径40cm、高さ1・3mのスレンレスタンクに溶かし込み、それを厚さ20cmのスレンレスの容器に収めて保管します。

「埋めてしまえ！」

出来たガラス固化体に人が近づけば20秒で死にます。まだまだ大量の熱も出しています。そこで取り敢えず30〜50年かけて地上で冷やします。高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センターがその保管場所です。その時点での放射線のレベルは近づけば数分で死ぬレベルです。そのためそこに放置するわけには行きませ

ある程度冷却の済んだ核のごみは、その後どうすれば良いのでしょうか。2つの方法があります。一つは、人が近づけないところに隔離して保存する方法、もう一つは近くに管理する方法です。放射線放出量が下がるまで人間が管理してゆか、それとも人間世界から隔離された場所に捨てるかです。日本政府をはじめとして多くの国は隔離を選び



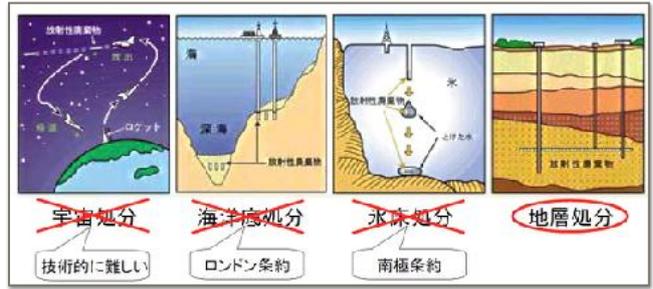
ました。

隔離場所方法として考えられたのが次の4つの方法です。1つは宇宙に捨てる方法です。最終的には地球に戻ってこないように太陽などに打ち込みます。2つ目は深い海の底に捨てる方法です。日本海溝など、人の手が届かない場所に捨てます。3つ目の方法は、南極の氷床の底に埋める方法です。核のごみは熱を出しているのです。南極の氷原に置けば、自分で氷を溶かして氷床の底まで沈んでゆきます。

残念ながら1案はロケットの安全性が低く使えません。発射失敗は深刻な汚染事故そのものです。2案と3案は国連の海洋条約(ロンドン条約)や南極条約で許されません。そこで残されたのが地(9面に続く)

寿都、神恵内と核のごみ

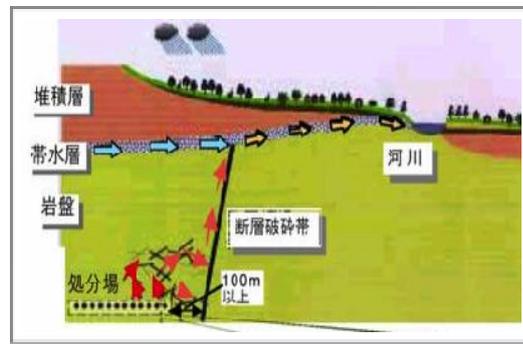
〈8面からの続き〉



層処分でした。深い地底に穴を掘って埋めてしまう処分です。

10万年間、核のごみが、地表で生活する人類に触れないようにするには、核のごみに含まれる放射性物質が地表に漏れないようにしなければなりません。地殻変動により埋設物が地表に押し出されたり、火山活動で地表に溶け出さない限り、金属が大部分の放射性物質の漏れ出す経路は地下水です。そのため埋設地としては地下水に触れない地質構造、岩塩層や砂漠が適しています。事実、アメリカなどは砂漠地帯、ドイツやフランス、イタリアなどは岩塩層を考

えています。しかし、残念ながら日本にはそのような場所はありません。日本で地層処分を行うには、可能な限り地下水の少ない場所を選び、な



処分場から漏れる放射性物質

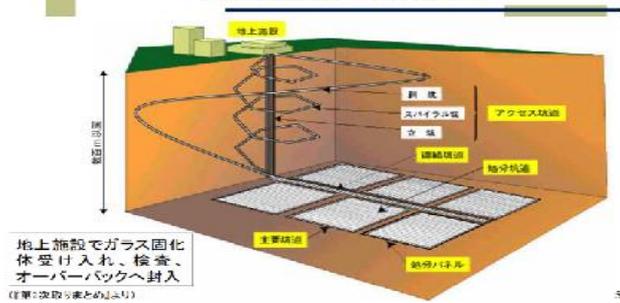
おかつ地下水に溶出ししないよう十分な対策を立てる必要があるのです。

1976年、当時の原子力委員会は核のごみ処理方法として地層処分を選び、84年に中間報告で発表しました。そこで「明らかに適正に劣る地層は別として、地質条件に対応して人工バリアを設計することにより、地層処分としての安全性を確保できる見通しが得られた」と報告し、99年に『第2次取りまとめ』を出しました。

ガラス固化体を納めたステンレス容器は、水を防ぐ熱い粘土で覆っ

て地下300m以下に埋設するとしています。金属容器と粘土の寿命は1000年程度、そのあとは地下水が地表に出てくるまで数万年、合わせて10万年持つと政府は説明しています。300mの地下に埋めるのは、地下水が地表に出てくる時間を稼ぐためだとの説明です。

処分施設の概念図



埋められる高レベル廃棄物。下に示す地下廃棄物場に埋められる

取りまとめは、地質環境として長期にわたって安全で、工学設計に必要な地質特性を持つ地層処分に適した地質特性を選ぶこと、地層処分は工学技術的・経済的に可能な場所を選び安全評価を行い将来への影響は小さい事を示すとしています。

しかしこれを一般向けの説明では

地層処分に適した地質が日本にひろく存在し、現在利用可能な技術をもとに設計・施工可能で、考えうるさまざまなケースに対して安全であると説明しました。地層処分の実現性と安全性を保証している？！と。

「高木学校」の藤村陽氏は指摘します。(2001/12/25) 『第2次取りまとめ』の本音は、「活断層を避ければ地震の影響は十分低い」ので、「現状の技術やその延長上の技術で実施できる見通しを確認」し、「適切な処分地選定と工学的対策をとるので過度に保守的な安全評価はしない」結果「安全な地層処分も可能」と言っている「過ぎない」と。

「本当に大丈夫？」

ステンレス容器が壊れないという保証もありません。私たち人間がステンレスを生み出してから120年しか経っていません。ステンレスの耐食性はまだ試されていないのです。ガラス固化体ももちろんです。砂漠地帯のメソポタミアやエジプトのガラス器は数千年前の物でしかありません。湿潤地帯での保証はありません。

〈10面へ続く〉

寿都、神恵内と核のごみ

〈9面からの続き〉

政府の説明をひとまずは信じましょう。でも穴があるように思えるのですが。仮に金属容器と粘土が千年持ったとしてもしょう。それ以後の隔離は地下水がゆっくり流れること、地下の水は酸素の溶解が少ないので金属を腐食しにくいことに頼っています。断層や亀裂がなく、地殻変動もないという前提です。しかし日本の大地にはそんな場所はありません。どこをとっても断層だらけ、いつ地震が起こってもおかしくない大地です。そこに10万年間地震がないとはとても思えません。地震が起き断層が出来れば、粘土は壊れます。

また断層を通して地下水は地表に流れ出します。

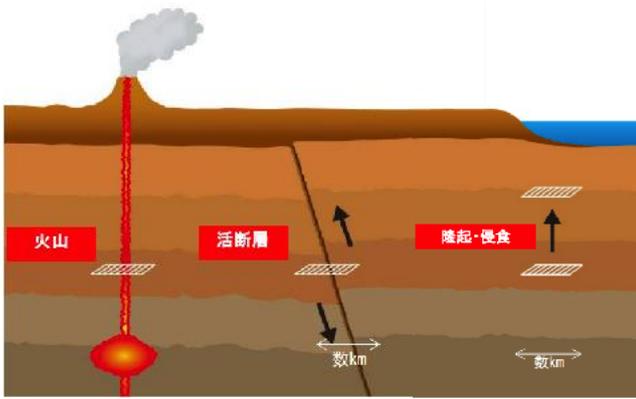
10万年という時間は地球の氷河期があった時間です。今地球は間氷期で温暖ですが、10万年後は地球を氷河が覆っているかもしれません。事実オンカロでは、地表が氷河で覆われていると何が起きるかが議論されています。更に、人間の生存が保証されないのです。我々の後を次ぐ生命体に、どう核のゴミの危険性を伝えるかまで議論されているのです。

まとめましょう。地層処分地として要求される地質条件は、地殻変動の影響を受けない、火山活動の影響を受けない、丈夫で均質な岩盤で、地温が低く熱特性が良へ

学術会議の提言（要約）

期間は50年、各電力圏内に最低1カ所

- ① 暫定保管の方法は、安全性・経済性の両面から考え、乾式（空冷）
- ② 暫定保管の期間は原則50年
- ③ 高レベル廃棄物の保管と処分については、事業者の発生責任が問われるべき
- ④ 暫定保管施設は、原発を保有する電力会社の配電圏域内の少なくとも1カ所



地下水の流速が遅くて地下水の化学的性質が核種移行を抑制するよう場所を選ばなければならぬ。

「埋めたら最後取り出せない」

地下埋設の問題は、一度埋めたら取り出せないことです。何しろ放射線物質です。人が掘って近づくことはできません。何か問題が起きても、解決する手段がないのです。NUMOはそんなことは起きないと主張していますがとても怪しい。事実ドイツでは、安全と考えられていた岩塩坑に核物質を遺棄しました。しかしその後、絶対安全と思われていた岩塩坑に水が入り、核物質の汚染流出が起きそうになりました。今ドイツ政府はどう取り出すかを必死に模索していますが、まだ解決方法は見つかっていません。

日本の科学者を代表する機関である学術会議も疑問を呈しました。現在の科学では保証できないと。そして提案は、確実な方策が見つかるまで地上で人間が管理するべきであると。埋めてしまっ後は知らぬ存ぜぬは未来の地球への無責任なツケ回しだと。その時人類が生き残っているかどうかもわからないのに。私も日本学術会議の考えに賛成です。

なぜ寿都町はパンドラの箱を

「風に翻弄された寿都町」

8月13日の北海道新聞朝刊で寿

都町が高レベル放射性廃棄物最終処分場選定の文献調査に応募を検討していると報道されました。町長の満を持しての仕掛けとも読める発表でした。

その後の状況は、道知事の反対表明から「頬を杖束でたたくやり方だ」との批判、周辺町村の反対表明、漁業者の反対と報道は続きますが、あまりの量の多さと皆さん既にご存知のため省略します。

9月18日に、NHKは入手した寿都町の過去の非公開議事録を報道しました。そこには、「益明け、なるべく早い時期に計画したい」「よそに先手を打たれたら、もう一番はとれない」「町民に何いを立てて勉強会をするっていったらかえって面倒な話になるので、ここは町を動かしている行政、議会、産業団体、その要職にある人が皆で総意でそうしよう」。風力「促進区域」の指定めど立たず、：「資源エネルギー庁の官僚をくすぶった中で、洋上風力を浮上させるといふ、いやらしい戦法かもしれないが、結果よければなんでもよし」「きれいごとで勝ち取れるというものであればそれに越したことはない。遅れを取り戻すためには、私はどんな手を使ってでもやっやる」といっている」といっていました。

〈次号に続く〉

故 森山 軍治 郎 氏 (元 泊原発の廃炉をめざす会 事務局長) 遺稿 連載(8)

泊原発裁判風景—しろうと裁判のはじまり (下)



2015年7月8日 勉強会での森山氏

第一回口頭弁論では、最初に被告北電側の弁護士が、この訴訟を却下してくれ、と裁判長に言った。理由は、原告たちはまじめに法廷で裁判を行うのではなく、大衆運動を展開しようとしているからだ、という。頭にきた。法廷は争うところなのに、この争いはなかったことにしてくれ、と頼んでいるのだ。ほくは、つかつかつと代表弁護士の前に行った。

— 訴えているのはほくら原告で、あなたたちは被告人の弁護士だ。やっと法廷で争えるようになったというのに、その態度は許されない。

ものすごいけんまくで怒りをぶつけたものだから、弁護士は殴ら

れるとも思ったのか身構えたままだった。

— 北電は最初から尻っぽをまくのか！

— さっさと原発を止めろ！
満席の傍聴席も騒然となってヤジが乱れ飛んだ。

— 傍聴人は静かに！

— 傍聴人ではないぞ。オレは原告八六一番だ !! 法廷内に笑いがドツとこだました。もちろん笑っているのは原告席と傍聴席だけだが、書記官までがニガ笑いを隠していなかった。

結局、被告側が却下の申立ては取消すということになって、口頭弁論がはじまった。すでに提出していた訴状の補足弁論に入って、原発の近くに住む原告のひとり、裁判官のところへ行って、牛乳をひとりひとりに渡し、弁護士のところでも同じことをした。

— この牛乳は原発の近くの牧場の牛からしぼったものです。まだ動いていないから、当然放射能は入っていません。安全です。稼働をはじめると微量の放射能がつねに放出されることについては、北電も認めています。放出されるけど、人体や生態に影響はないといっています。やがて原発が動きはじめ、この裁判も長引くことでしょう。法廷が開かれるだ



札幌地方裁判所

びに、その牛乳を裁判官と被告弁護士に飲んでいただきます。本当に安全なら、人体に影響はないでしょう。もし、皆さんの体に変化があれば、それが動かぬ証拠となるでしょう。

泊原発裁判はこうしてはじまった。

第九回目の法廷だったと思うが、被告側の証人尋問がはじまった。証人は北電の原子力部長、原発を建設し稼働させるには膨大な石油が必要のはずだが、原発によって、投入した石油エネルギーの何倍の電気エネルギーが生まれるのか、石油換算でその倍率を示してほしい、とほくが訊問。北電独自には試算していないが、通産省が採用しているアメリカ政府によるデータだと四倍のはずだ、と答える。そもそも、たった四倍のエネルギーを得るために、こんな危険を犯してでも原発を運転するのか。それにこのデー

ターは立地も違う外国のもので、しかも七〇年代の数字なのだ。北電に経済性をウンヌンする資格はない。ほくは怒りをこめて訊問を終えた。

発生する放射性物質について別の原告が訊問に立った。ほくらはしろうとだから、専門的なことはわからないので、常時発生している微量放射性物質と使用済核廃棄物に含まれる放射性物質の名前を教えてください。よくおぼえていません、と証人。原子力部長ともあるう人がそんな無責任なことではないのですか、証人は知っているだけでも答えなさい、と裁判長。原告団と傍聴席の哄笑の渦巻くなか、トリウムとか何とか、証人は小さい声でいった。こんどは裁判官まで苦笑いする始末だった。

しろうと裁判に、プロたちはうるたえながらも従うしかなく、次回はや一二回目の法廷になる。

【完】
【まげい】第一号 一九九三年七月】 から転載

次回から故森山軍治郎氏の「まだ懲りないのか国も電力会社も」(二〇一二年二月)を掲載します。



本の紹介

西尾正道 著

被曝 インフォデミック

トリチウム、内部曝露—ICRP によるエセ科学の拡散 21年3月刊、寿郎社(札幌)

著者・西尾正道先生は、長年、北海道がんセンター病院で、放射線を利用したがん治療医として、多くの患者の命と向き合ってきた。2011年3月の福島原発の事故以後の10年を見る中で、放射線の負の側面にも目を向け、多くの著作を発表されてきた。まさにこの10年は、科学的に全くインチキな放射線の人体影響に関する知識が流布され続けた期間でした。

西尾先生は、放射線被曝について、政府・行政、東電は、御用学者・インチキ有識者と組んで、ICRP(国際放射線防護委員会)のエセ科学に基づいた無責任な放射線対策を続けている、それに、脱原発を叫ぶ人たちさえも含めて、多くの人たちも正しい知識で議論することもないまま、この10年、放射線による健康障害がいかに軽視されてきたか、今後、健康障害の発生が憂慮される状況になっていることか、に強い怒りと危機感を持ち、この「警告書」を出版されるに至ったということだ。

「インフォデミック」とは、大量の情報が氾濫する中で、不正確や誤った情報が急速に拡散し、社会に影響を及ぼすこと。英語のInformation とPandemic を組み合わせた造語です。

この本では、次のような問題が取り上げられています。①福島事故以後、現在まで行われてきた被曝線量に関する規制値の大幅緩和、放射線の環境測定データの②ICRPが推奨してきたSv(シーベルト)という単位では、人体影響を正しく評価できない、③内部被曝の恐ろしさが隠され続けている。④原発事故で起る人体影響は、長期低線量曝露の結果であり、閾値は設定できないのに、「0.05 Sv大丈夫」として、高い環境基準、放出水基準としている、などについて、詳しい文章とたくさんのお図表を使って解説されています。

多少難解な部分もありますがどこを読んでも、西尾先生の熱を感じられ、頑張って読み進むことができます。先生が「脱原発を叫ぶ人たちでさえ、正しい知識で議論することもないままの10年であった」と書かれていることを読者は胸に刻み込み、これを読んで成長していく自分を作り、まともな議論を大いに広げましょう。(福地保馬)

【著者略歴】

西尾正道(にしお・まさみち)

1967年生まれ。札幌医科大学。74年国立札幌病院・北海道地方がんセンター(現・北海道がんセンター)放射線科勤務、08年センター院長、13年名誉医院長。

☆北区の会に入会ください。

北区の会に入って廃炉への活動をしましょう。

会費は年1口(千円)以上です。

申し込みは、下記にご連絡ください。

HP <https://hairo-kitaku.org/>

メール hairo.kitaku@gmail.com

電話(FAX) 011-726-7234

☆カンパをお願いします。

【ゆうちょ銀行 普通口座】

記号 19050 番号 55938131

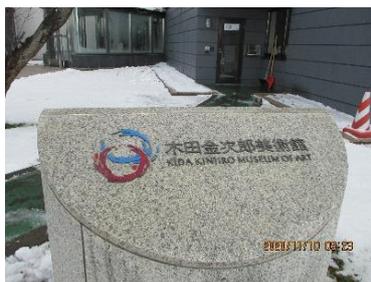
口座名「泊原発の廃炉をめざす札幌北区の会」



モエリ沼公園のガラスのピラミット

会員紹介

富田 素實江さん



岩内町・木田金次郎美術館

原爆写真集から原発反対活動に参加

中学三年の時、図書室で無造作に積まれていた「広島・長崎原爆写真集」を開きました。A3版5cm程の白黒写真を一気にめくり、凄惨な実態の数々に驚愕して立ち尽くしました。同時に、戦争についての真実を教わってこなかった学校教育に疑問を覚えました。

ました。

チェルノブイル原発事故は当然の帰結と思いました。

泊原発建設の時は労働者の命と健康問題の活動に携わっていたので、反対運動に参加する余裕はありませんでした。

福島原発事故で、建設を許してきた国民の責任として廃炉への活動参加を始めました。

趣味は音楽、絵画鑑賞。クロスカントリースキー。コロナ禍でも美術館に4回足を運びました。今冬は、モエリ沼公園でホワイต์アウトに捕まりながらもスキーを楽しみました。